



TITLE:

サアー, フランク, ダイソン (流星課
観測研究號)

AUTHOR(S):

エデイントン, エー エス

CITATION:

エデイントン, エー エス. サアー, フランク, ダイソン (流星課観測研究
號). 天界 1933, 13(148): 309-311

ISSUE DATE:

1933-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162389>

RIGHT:

サァ | , フランク, ダイソン

エ | , エス, エデイントン

去る2月28日, Sir Frank Dyson は彼が過去23年間に渡つて保つて來た, Astronomer Royal の職を隱退した. 此れは學界の人事異動の中に於いて, 最も目立つて大きいものの一つである. 彼の絶えざる活動, 彼の偉大なる勢力或は又, 英國天文學協會に於ける彼の最高の地位等について, 今更, 諸者に話す必要はなからうと思ふ. 彼の公的生活の中に於いて Greenwich に於ける彼の最後の幾年間を通じて, 彼が國際天文同盟の盟主に選ばれた事は, 其クライマックスとして宜なるものの一つであつた.

私は求めに應じて, 此處に, Sir Frank の科學的貢獻に關して總括的に述べ様と思ふ. 彼の最初の論文の一つは “Anchor ring のポテンシアル” に關するものである. 此の論文は, 若しも彼が事實に反して Greenwich 天文臺に彼の職籍を持たなかつたならば, 彼が活躍したであらう處の其の卓越せる方面を我々に暗示するものである. 其時より, 彼の經歷は三つの期間に分れる. 即ち第一期間は1894年より1905年迄の Greenwich に於ける Chief Assistant, 第二期間は1905年より1910年迄の Scotland の Astronomical Royal, 第三期間は1910年より1933年迄の Astronomical Royal である. 第一期間中に於いて, 彼は主に天體寫眞星圖及び其カタログを取扱ひ, 同時に 此の仕事に關係して生ずる諸問題を研究した. 天體寫眞測定法の最も適切なる應用の一機會は1900年—1901年に於ける Eros の衝に際して起つた. 其時, Greenwich は太陽視差の決定に對して非常なる成功を収めたのである. 彼と Dovidson 氏との協同研究は此の時が最初であり, 此の協同事業は, 今日迄, 多くの結論と進歩とを導き出したのである.

此の早年期に於ける彼の最も偉大なる仕事は Groombridge の, 極附近に於ける星表の, 改正であつた. 此れは W. G. Thackeray 氏との協同に於いて行はれ, 其の結果は1905年に公表された. 此の中には, 約4250個の星の個有運動が掲載され, 其れは星の運動の統計的研究に關し, 至便なる材料を, 驚く

べく豊富に與へた。後、1910年に至つて、他の星表、それは統計的研究者にやゝ異なつた研究方面の資料を提供する處の、かの Boss の Preliminary General Catalogue が出版せられる迄は、此の星表に比肩し得べき何ものも、なかつたのであつた。Groombridge の個有運動表は適切なる機會に出現したのであつた。即ち、1904年には Kaptyn によつて、二大星流が公表され、引き續いて數年間は、星の分光型と光度との關係が論ぜられ、研究の field として恒星界は漸次、一般注目の的となつて來た。併し此の繁雜な仕事に従事せる Dyson と Thackeray は此の如き期待は全く眼中になかつたのであつた。彼等は、只、行はなければならない一つの仕事を爲しつゝあると云ふ事を意識して、満足して居たのである。個有運動は、當時、特に興味のあるものではなかつた。併し唯一つ、太陽視差の再決定のみが、新しい研究家によつて定められるべく残されて居た。此の絶えざる興味ある問題は、主として、視差に關する二つの研究が同一の結果を與へないと云ふ點にある様である。

Dyson は星の統計的研究に關して多くの論文を公にした。二大星流の實在性に未だ疑惑が存在した當時に於いて、彼は其星流は個有運動の非常に大なる星によつて最も明瞭に擴大されると云ふ事を示した。他の論文は多く數學的のものであるが、其等は空間に於ける星の分布に關係したものである。其れは Carrington の個有運動表及び後年には Greenwich の視差の研究より導き出された。“Persec”なる言葉の實際の名稱は Turner の提言ではあるが、Dyson は其の言葉の最初の誘導に、其の責を負ふべき人である。其れは單なる變形に過ぎない様である。併し、ゴルフリングに於いてグリーン迄の距離の逆数が $0.0058 \frac{1}{\text{碼}}$ なる時、同じく $0.0083 \frac{1}{\text{碼}}$ の距離にある障害物を通過せんとする一人のゴルフアは、恒星界の研究に於けるハンディキャップを、其れが、如何にして減じたかと云ふ事を、多分、了解する事が出来るであらう。

彼の早年期に於ける仕事の他の一面は、分光學であつた。其れは1900年、1901年及び1905年の日蝕に於いて主として行はれ、又、Edinburgh に於いても行はれた。多分、私は Dyson の持てる、而して他の幾人かの觀測者の哀れにも恵まれなかつた一つの特性を思ひ浮べる事が出来る。即ち、彼は日蝕に際して、全く、幸運其のものであつた。彼の六回の試みに對して、確かに

六つの美事なる日蝕の記録がある。

彼の全経歴を通じて最も記憶さるべき企ては、1919年に於ける二回の日蝕遠征に於ける彼の準備であつた。其れ等の日蝕に於いては、太陽の重力による光線の屈曲度を確かめる事であつた。當時、世界大戦の暗黒時代に面して彼が其提案を提出した時には、其遠征の出来る見込みは殆んど絶望の様に思はれた。併し、其日蝕に於ける殆んど例外的に好都合なる星野を逸して終ふ事は無益な事であつたので彼は非常なる失望の中にも、其準備を進めたのである。色々な機械が入用であつたが、併し、其れは休戦迄、入手する事は不可能であつた。日蝕遠征の準備は最後の數刻がラツシュ・アワ―である。併し私は此の場合の如く、休戦と遠征隊出發との間に僅か三ヶ月よりなかつた忙しさが、曾つて、あつたか如何を疑ふ。Dyson は一行には加はらなかつたけれども、遠征隊の背後にあつて、萬事萬端あらゆる仕事に従事した。Einstein 效果に關する此の調査の結果は、天文學上、物理學上、又實に一般學問上に於いて周知の事實である。

彼の一個人としての研究に關しては、より多くの事が述べられる。併し、其れは、單に、彼の興味の中心——Greenwich——より外れるのみであらう。Greenwich が過去23年間に產出した總べてのものに對して、彼の指導が如何に完全に行き渡つて居たかと云ふ事は、曾つて彼の配下にあり、或は、現在迄あつた人々のみが、よく此れを了解し得る處である。私は、此處に於いて彼の文獻を特性づける事は出来ない。併し、私は、彼の多方面の研究の一殘部として地球物理學的研究に於ける彼の活躍を引用する事が出来る。即ち、緯度變化、經度に對する正確なる時刻、Abingerに於ける新しい磁力觀測所を擧げやう。Greenwich に於ける彼の仕事は、彼と協同した人々と切り離す事は出来ない。其して又、其れを切り離す事は彼の意志に反する事であらうと思ふ。(以上)

(The Observatory 3月號所掲、譯文責任 柴田)